

平成 30 年度普及指導活動に係る外部評価の実施状況について

1 趣旨

広島県の農業技術指導所において、より効果的かつ効率的な普及指導活動を展開するために、当年度の普及指導計画から選定した普及課題について幅広い視点から外部委員より意見を聴取し、その評価結果を次年度の普及指導計画等へ反映させることをねらいとして実施した。

2 外部評価会議の内容

(1) 外部委員の構成

分野	所属・役職等	人数
先進的な農業者	指導農業士・農園園主	1名
若手・女性農業者	農園役員	1名
農業関係団体	農業団体室長	1名
消費者	消費者団体事務局長	1名
学識経験者	大学准教授	1名
マスコミ	新聞社論説委員	1名
民間企業	経営コンサルティング会社代表取締役所長	1名

(計7名)

(2) 評価対象

★普及指導計画に定められた成果目標の達成状況

普及指導計画のうち、広島県の半数の市町の普及指導計画を評価対象とした。

(全体 319 課題のうち 170 課題)

※170 課題を一覧として評価対象とするとともに、代表的な 5 課題について、より詳細な評価を実施した。

【代表課題】

課題番号	主な品目	担当指導所
①	青ねぎ	西部
②	かんきつ	西部
③	キャベツ	東部
④	水稻	東部
⑤	水稻, アスパラガス	北部

★普及指導活動の体制・普及職員の資質向上の取組

評価対象を次のとおりとした。

- ・組織体制
組織図・普及職員担当別人数・普及拠点及び普及指導員数の過去 10 年の動向
- ・普及職員の資質向上の取組
普及職員研修体系と実施状況

(3) 評価項目

評価対象	評価項目	評価の主な視点	
普及指導計画に定められた成果目標の達成状況	評価対象課題 全体の達成状況	○普及活動は計画どおり進んでいるか ○普及活動の目標は達成しているか	
	代表課題	普及指導活動の 計画・課題設定	○課題の現状把握，現状分析が的確に行われているか ○普及の支援対象として，対象者の選定は適切か ○課題の重要性が高く，課題解決・目標達成に有効な計画か ○目標の設定，成果指標は適切か
		普及指導活動の 進め方	○活動方法と時期は適切か ○効果的な所内の活動体制となっているか ○関係機関との連携・役割分担はできているか
		普及指導活動の 成果	○普及指導活動の寄与により，目標が達成できたか (見込めるか) ○成果を的確に把握分析し，今後の活動に向けた課題が整理できているか ○他産地，他の経営体への波及効果があるか（見込めるか）
普及指導活動体制普及職員の資質向上の取組	組織体制	○普及指導センターの設置数及び設置場所は妥当か ○普及指導センターの組織体制は，効率的な体制か	
	普及職員の設置	○普及職員の設置数は妥当か ○普及職員の配置は妥当か	
	普及職員の資質向上の取組	○普及職員の研修体系は妥当か ○普及職員の研修内容は資質向上に資するものか	

(4) 外部評価会議の開催状況

【第1回】※外部委員への事前説明

- ・日時：平成30年7月27日（金）10：00～16：00
- ・場所：県内市町役場，アスパラガス栽培ほ場，法人事務所（現地）

時間	内容	参加者
10：00～12：00	<ul style="list-style-type: none"> ・普及指導活動の説明 アクションプログラム，普及指導体制，普及指導計画等 ・評価対象課題の概要説明 	外部委員 農業技術指導所長 農業技術課
13：00～16：00	<ul style="list-style-type: none"> ・現地調査 評価対象課題のアスパラガス栽培ほ場，法人事務所現地確認 課題対象者からの概要説明，質疑応答等 	

【第2回】※外部評価の実施

- ・日時：平成31年1月23日（水）9：30～15：00
- ・場所：県立総合技術研究所 農業技術センター

時間	内容	参加者
9：30～9：50	・外部評価実施概要の説明	外部委員 農業技術指導所長 農業技術課
10：00～12：00	・評価課題実績の説明 (平成30年度普及指導活動実績報告会へ出席)	外部委員 報告課題関係者（市町，JA， 農業者），農業技術指導所 農林水産事務所（農林事業所） 農業技術センター，県庁関係 課，農業技術課
13：00～13：55	・評価課題の質疑応答	外部委員 農業技術指導所(所長，担当者) 農業技術課
13：55～14：10	・評価事項説明 (普及指導組織体制，普及職員数の動向，研修 体系等，評価課題【一覧】実績まとめ)	外部委員 農業技術指導所長 農業技術課
14：10～15：00	・評価及び意見整理	

3 評価の概要と今後の対応方針

課題番号①

1 経営体の概要

- ・家族経営が中心となる産地で、露地野菜を周年栽培している。
- ・高齢化による労力不足の解消に向け、近隣農業者との法人化による作業の効率化を検討している。

2 普及指導計画の実施状況と成果等

活動項目	区分	実施状況, 成果等の概要
法人化に向けたビジョンづくり	活動経過	・関係機関と連携して毎月法人設立検討会を開催し、経営理念、経営戦略や営農計画の検討を行った。
	成果・課題	・平成 31 年の法人設立に向け、法人の将来像、経営理念や営農計画が明確となりつつある。 ・省力化・軽労化による労働生産性の向上対策、新たな労力確保に向けた取組や、合理的な労務計画の検討が必要である。

3 評価の概要及び今後の対応

評価できる事項	改善すべき事項	次年度普及指導計画等への反映, 活動方針
<p>○園芸品目の法人化という難しい課題への支援は有効である。</p> <p>○関係機関、専門家とも連携、役割分担をしており、チームでフォローをしている姿がうかがえる。</p> <p>○対象者と十分なコミュニケーションを取りながら、一緒になってトライ&エラーで活動を進めている点に、大いに共感を覚える。</p>	<p>○法人化することで経営を維持、発展させていくことを目的とするならば、中長期的な計画についても指導する必要がある。</p> <p>○当面、実態に即した活動を行っているが、今後は活動や成果の振り返りが必要になると思われる。</p>	<p>○今後 5 年間の販売目標や作付品目ごとの目標収量は既に設定しており、今後は、目標を達成するための具体的な行動や取組時期の計画策定を支援する。</p> <p>○PDCAを繰り返し、外部の専門家からもアドバイスを得ながら振り返りを行うこととしている。</p>

課題番号②

1 経営体の概要

- ・平成 25 年に第三者継承により I ターン就農し、かんきつとばれいしょを栽培している。
- ・収益性の高いハウスレモンで、チャノキイロアザミウマによる被害が発生しており、成品率を向上させる必要がある。
- ・夏場のハウス内の防除は生産者の負担が大きく、生産者の負担が小さい防除方法の検討が必要である。

2 普及指導計画の実施状況と成果等

活動項目	区分	実施状況、成果等の概要
ハウスレモン栽培技術の高度化	活動経過	<ul style="list-style-type: none"> ・天敵資材導入に向けた実証展示ほを設置し、チャノキイロアザミウマ及び被害果の発生状況を調査した。併せて、ハウス内の湿度管理や草生栽培についても指導した。 ・天敵活用に関する理解促進に向け、生産者への状況報告と意見交換を行った。
	成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・成品果率を、前年の 30% から 89% へ向上させることができた。 ・生産者自身で天敵が生息していることを確認できるようになるなど、病虫害被害に関する技術力の向上につながった。 ・夏季以降、ミカンハダニの発生を抑えることができなかったため、別の天敵資材の追加放飼等が必要である。 ・天敵の定着に適した草生栽培の草種の検討が必要である。

3 評価の概要及び今後の対応

評価できる事項	改善すべき事項	次年度普及指導計画等への反映、活動方針
<p>○若い I ターン者が広島県の沿岸部（条件不利地）に入って「ここで私は次世代の担い手になる」と決意したとてもいい事例である。</p> <p>○第三者継承の成功事例として高く評価できる。</p> <p>○経営改善に向けた技術として、経営を支える目的が明確である。</p>	<p>○J A との連携や役割分担をより明確にしたうえで活動するほうが、より成果が挙がるのではないか。</p> <p>○この成果を迅速に普及させるための取組方法を、具体的に検討する必要がある。</p>	<p>○J A は管内で就農を希望する者を実習生として雇用し、その間に技術や知識の習得等の就農準備を進めている。その中で当所は、経営管理に関する講義や事例研究等を担当しており、次年度もこの方針に基づいて支援する。</p> <p>○本普及対象者のほ場を地域のモデルほ場として活用する。モデルほ場での研修により、J A 営農指導員、部会役員や生販委員等への普及を図る。その後は部会の地域ごとのネットワークを活用して、技術の周知と普及を図る。</p>

課題番号③

1 経営体の概要

- ・平成 27 年度に I ターン就農し、キャベツを主体にブロッコリー、サラダ春菊を栽培している。
- ・I ターン就農での当地域におけるキャベツ栽培モデルとして確立できるよう、支援が必要である。

2 普及指導計画の実施状況と成果等

活動項目	区分	実施状況、成果等の概要
キャベツ単収 向上支援	活動経過	<ul style="list-style-type: none"> ・コナガ対策として、薬剤のローテーション防除を行うよう指導した。あわせて、交信攪乱剤によるコナガの密度低下効果を検証するため、実証ほを設置し調査を行った。 ・根こぶ病対策として、抵抗性品種の導入するよう提案し、あわせてエンバクの栽培により土壌中の根こぶ病菌密度が低下するか検討した。
	成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的に薬剤防除を行うことにより、病害虫の被害が減少して単収の向上につながった。 ・エンバクを栽培することにより、土壌中の根こぶ病菌密度が 6～7 割程度低下することが判明した。 ・交信攪乱剤の実証ほでは、コナガの発生が少なく効果の検証ができなかったため、地域での普及性も含めて再度検討する必要がある。 ・土壌 pH が低く、根こぶ病が発生しやすい土壌環境にあるため、土壌 pH の矯正が必要である。

3 評価の概要及び今後の対応

評価できる事項	改善すべき事項	次年度普及指導計画等への反映、活動方針
<ul style="list-style-type: none"> ○若い I ターン者で中山間地域の担い手となる人物をターゲットとしたことは、とてもよいと思う。 ○水田転換畑のモデルとなる。 ○部会等で技術の普及・拡大が見込める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○指導して成果が上がった技術の横展開について、もう少し具体的な案があればと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○JA と連携し、栽培講習会を通じて技術の波及に取り組んで行く。

課題番号④

1 経営体の概要

- ・平成 24 年に法人設立し、水稻の経営面積が 54ha である。
- ・急速に規模拡大したため、労働力確保や人材育成等の組織体制の整備が追い付いておらず、生産性の低下や人材育成について課題がある。

2 普及指導計画の実施状況と成果等

活動項目	区 分	実施状況、成果等の概要
人材育成体制構築支援	活動経過	<ul style="list-style-type: none"> ・ JGAP 認証取得に向けた支援，全社員参画の検討会を実施した。 ・ 人材育成研修等を通じ，社内運営や栽培管理における課題抽出を行い，適正管理，作業実施に向けたルール，しくみ作りを支援した。
	成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各主要作業の作業標準書を作成できた。 ・ 人材育成面について，経営者と従業員側の双方の捉え方に乖離点があることが認知され，改善取組内容及び方向性が明確になった。
水稻単収向上支援	活動経過	<ul style="list-style-type: none"> ・ 育苗機の導入を提案するとともに，省力化を目的とした露地プール育苗の導入を支援した。 ・ 収量停滞の原因が硫黄欠乏であることを把握したため，育苗培土製造業者と連携して支援を実施した。
	成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 育苗機の導入により，計画的に田植えを実施することができた。露地プール育苗により，5割以上の省力効果が確認できた。 ・ 育苗培土を改善し，初期生育の改善効果が認められたが，生育後期の凋落を招き収量改善には至らなかった。 ・ 収量改善のためには，硫黄欠乏対策と後期栄養状態の改善が必要であり，施肥設計の見直しも必要である。
園芸作物導入支援	活動経過	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園芸品目担当予定の従業員の退職により，園芸作物の導入は休止することとなった。
	成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園芸作物の代わりに，平成 31 年秋からもち麦を導入することとなった。 ・ 平成 31 年 2 月に新たに 2 名の従業員が加わり，従業員 5 名体制となるため，水稻との労務バランスや従業員の習熟度を踏まえながら，園芸作物導入を含めた経営多角化に向けた方向性を整理する必要がある。

3 評価の概要及び今後の対応

評価できる事項	改善すべき事項	次年度普及指導計画等への反映、活動方針
<p>○収益性の向上と，組織の運営体制のルール化という，経営体の今後も踏まえた目標となっている。</p> <p>○収量向上に向けた活動は，経営改善に大きく役立っており，活動方法，時期ともに適切である。</p>	<p>○対象者と指導所，GAP のコンサルが役割分担してやっているというところを，もう少し見えるように報告してほしい。</p>	<p>○次回の報告時に指摘を反映する。</p>

課題番号⑤

1 経営体の概要

- ・平成 17 年に法人設立し、平成 28 年から白ねぎとハウスアスパラガスを栽培している。
- ・平成 27 年に、地域の若者を常時雇用しており、園芸品目の栽培技術の早期習得が求められている。

2 普及指導計画の実施状況と成果等

活動項目	区分	実施状況、成果等の概要
アスパラガス栽培技術向上支援	活動経過	<ul style="list-style-type: none"> ・現地巡回により、適期管理指導を行った。 ・経営分析を行い、収量と作業時間の目標設定と改善提案を行った。
	成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・担当者の栽培技術への理解が深まり、目標収量を確保することができた。 ・担当者が作業の目的や方法を理解し、作業方法の統一が図られ、作業時間が短縮できた。
白ねぎ栽培技術向上支援	活動経過	<ul style="list-style-type: none"> ・単収向上と収穫時期の前進化のため、作業スケジュールの作成支援を行った。 ・現地巡回により、適期管理指導を行った。
	成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・前年は 1 月から出荷開始だったところ、11 月下旬に出荷開始することができた。また、作業も効率化し、前年の出荷量は 20 箱/日だったところ、40 箱/日出荷できるようになった。 ・安定生産と更なる作業の効率化により、部門の黒字化を目指す。
ハウスアスパラガス栽培面積拡大支援	活動経過	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関と連携し、今年度定植ほ場のハウス導入や市植栽事業をすすめた。 ・来年度定植ほ場の作業準備日程表の作成を支援し、進捗状況を確認した。
	成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・事業を活用し、計画通りに面積拡大でき、来年度定植ほ場の準備も計画通り行われた。

3 評価の概要及び今後の対応

評価できる事項	改善すべき事項	次年度普及指導計画等への反映、活動方針
<ul style="list-style-type: none"> ○経営体の方針を達成するための目的が明確である。 ○常時雇用の収益を確保するための技術指導を適切に行われている。 ○アスパラガスを園芸重点品目とする中、生産の担い手を法人と位置づけて推進しており、成功事例として期待したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全農や JA との連携が分かるような報告にしてほしかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○引き続き、関係機関とは役割分担をしつつ密接に連携して支援を行い、次回の報告時に指摘を反映したい。

対象課題

1 対象

- ・ 県内 170 経営体の個別課題。

2 普及指導計画の実施状況と成果等

- ・ 平成 30 年度の「売上目標」「成果指標の達成状況」「普及指導活動の成果と課題」「今後の対応」を一覧として整理した。

3 評価の概要及び今後の対応

評価できる事項	改善すべき事項	次年度普及指導計画等への反映、活動方針
○素晴らしい取り組みが多いので、もっと広報するべき。	○活動の目標設定の仕方を、長期計画（全体像）と短期計画（その中で今年何をやるか）に分けて検討し、それが外部にも伝わるように報告してほしい。	○3年間の基本計画をもとに、取り組みの背景、経過等の説明を加えていきたい。

普及指導活動体制・普及職員の資質向上の取組

1 普及指導活動体制

- ・広島県農業技術指導所管内図，組織図，普及職員担当別数，普及拠点及び普及指導員数の過去10年の動向

2 普及職員の資質向上の取組

- ・広島県普及指導員研修体系，研修実施状況

3 評価の概要及び今後の対応

評価できる事項	改善すべき事項	今後の対応
○普及指導員の熱心さが感じられる。 ○普及指導員は大変優秀で，知識も指導力も十分にある。	○もっと手厚く，きめ細やかな体制を求めたい。 ○新規の就農者等による担い手増を目指すのであれば，10年先を見越した人材確保は必要である。	○選択と集中により，効果的な普及活動を展開しており，担い手が将来の生活設計を描ける経営の確立を目指して，意欲ある経営体に対して安定化及び高度化に特化した普及指導活動を展開していく。 ○必要な人材の採用と，経験豊かなエルダー職員の確保も引き続き行っていく。